

49年前の金沢・自衛隊機墜落

当時の状況集会で報告

約五十年前に航空自衛隊小松基地所屬の戦闘機が金沢市内に墜落した事故を通じて、反戦と平和を考える集会在十三日、金沢市鞍月の県地場産業振興センターであった。戦闘機が墜落した当時、金沢大四年生だった小松基地爆音訴訟連絡会



戦闘機が墜落した当時の様子などを語る池田喜久さん(県地場産業振興センターで)

幹事の池田喜久さん(モロ)が事故を振り返った。一九六九年二月八日、大学のキャンパスにいたとき、大きな音を聞いた池田さん。ラジオを通じて、市内に自衛隊の戦闘機が落ちたことを知り、現場へ行った。

当時目にした光景を「街が一つなくなるくらい、空っぽになっていた。家はほとんど残らず、でかいエンジンが転がっていた」と回顧。「国民を守ると言われた戦闘機が金沢で四人の人間を殺し、二十人ほどに重軽傷を負わせ、十数戸の家を全焼させる状況をつくった」と訴えた。その上で、政府のすることが本当なの

か疑われないといけないと呼び掛けた。

小松基地の爆音訴訟に長年関わっていることにも言及。「団結し、ストライキをし、交渉することが労働組合にとって一番大事なこと。訴訟という方法で若い皆さんとごまかされず、戦い続けたい」と結んだ。

集会は、県平和運動センターの青年・女性部が企画。センターに加盟する県内の組合員約七十人が集まった。(田中美知生)

2018.3.14

北国

◆戦闘機墜落事故で集會

県平和運動センター青年・女性部は13日、金沢市の県地場産業振興センターで、1969年に発生した航空自衛隊小松基地所屬の戦闘機墜落事故から49周年の集會を開いた。小松基地爆音訴訟連絡会の池田喜久幹事が講演し、改憲反対など8項目のスローガンを確認した。柚平哲夫共同代表は、学校法人「森友学園」への国有地売却を巡る決裁文書書き換え問題で、抗議集會を19日に金沢市内で開くとした。